

おかげさまで20周年 感謝をこめて

社会福祉法人さぼうと 21 評議員・前事務局長
認定NPO法人難民を助ける会会長

柳瀬 房子



さぼうと 21 が創立されて、満20年になります。当時の日本が「国際化」をキーワードに掲げながらも、そのための具体策で大きく遅れている現状に風穴を開けようと、設立されたものです。当時の難民を助ける会(相馬雪香会長)の事業のうち、海外と国内の支援活動を分離して、新たに法人をつくりました。経団連加盟の企業や団体を周り、1億円の基本財産を準備することが出来たのは、ひとえに相馬先生の名声と影響力によるものと、感謝しています。私自身は仲間とともに20足の靴を履き潰すほど歩いたのを、今となっては懐かしく思い出しています。相馬先生には理事長として(また、難民を助ける会の会長として)以後、天に召されるまで、その任に当たっていただきました。

難民を助ける会は1979年の創立ですから、さぼうと 21 のスタートまで13年間、海外では難民への救援活動やアフリカの飢餓への対策等の活動を、国内でもインドシナ難民をはじめ日本にご縁のある外国出身者等へ奨学金を給付したり、日本語や学校教科の補完教育等を行い、大きな成果を挙げてきました。一時は日本語のボランティア教師だけで120人も指導に尽力していました。

さぼうと 21 はこうした国内活動を全面的に引き継ぐとともに、相談業務や生活支援活動を一層拡充しようとして出発しました。

95年1月、阪神淡路大震災のおり、さぼうと 21 はCSKからの高額のご寄付を筆頭に、みなさまから寄せられた浄財12億円をフルに活用して、炊き出し、生活物資、ランドセルの提供、ボランティアハウスの建設と運営など多くの活動を展開しました。特に、神戸に住んでいた約350人の外国人に対し、単身者には30万円、家族をお持ちの方には50万円を無利子、催促なしでお貸しました。約4分の1の方がその後5年以内に返済して来たことは、相互の信頼に応えるものであったと思います。

2005年には「坪井一郎・仁子学生支援プログラム」が発足、東洋熱工業の創立者である坪井一郎ご夫妻からの遺産贈与をいただき、主として理科系の優秀な学部・大学院生に無利子・返還の義務なしということで、ご支援しております。

2006年には吹浦忠正が理事長を継ぎ、今日に至っています。その2年前に再開した学習支援室では今、約80人のボランティアが、ミャンマー、カンボジア、イラン、スークダーンなど10カ国の若者や児童・生徒に日本語、学校教科、パソコンなどの指導を親身になって継続しています。

毎週土曜日は特に盛んで、目黒駅前のミズホビルにある事務局の3階と5階(難民を助ける会の事務所)をいっぱいにして約70組前後のレッスンが行われています。

また、昨年の東日本大震災に際しては、難民を助ける会とともに、約20億円規模の救援・支援活動を実施しております。さぼうと 21 では特に、セガサミーホールディングス、サンキョー、浅沼産業、イメージニクスなどを始め、お一人おひとりのみなさまからの力強いご支援と、チャリティ・コンサートなどの開催による資金で、岩手・宮城の両県で吹奏楽器や理科の教材、教室のカーテン、野球部の冬用コートなどの提供といった、教育分野に重点を置いた支援を展開しています。プラスバンドの復活は8つの学校と石巻吹奏楽連盟に対して行われ、内3校の生徒と引率者計39人を外務省の要請に応え、10日間(前後2夜は東京泊)、ウラジオストクでの日露交流事業に派遣しました。

難民を助ける会時代からの合宿研修会も毎年継続し、支援生間や役職員ばかりではなく、関連地域の人たちとの相互理解の促進にも努めてまいりました。

また、2005年に発足した法務省入国管理局難民審査參與として私を含め数名の役員が審査に関わっております。

こうした活動の詳細については個人情報が多いのでお伝えしかねるのですが、「さぼうと 21 に出会い、支えていただいたおかげで今の私があります」と卒業シーズンには証書を手にはじけるような笑顔で挨拶に来る支援生が何人もいることは、この活動を20年間続けてこれた原動力になっています。ご支援くださるみなさまの善意、期待に応え真剣に学ぶ若者と支えるボランティアあってのさぼうと 21 であり、私たちの活動は日々、感動の積み重ねです。

今後とも、日本の健全な国際化の進展に微力を捧げてまいりますので、引き続き皆様のご理解、ご協力を切にお願い申し上げます。

ご協力よろしくお願いします。

さぼうと 21 への会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます。

(詳細は、本号最終ページにあります。)

さぼうと21

外国にルーツをもつ 学生とのつどい ご報告

2011年12月23日（金）
JICA地球ひろば にて

さぼうと21の生活支援事業では、難民や中国帰国者、日系定住者の子弟など、縁あって日本に定住する外国出身の学生の学びを支援しております。

「支援生とのつどい」は、支援生の学業や研究の報告を受け、同時に、皆さんのがんごろ抱いている日本や出身国への想いや悩みを、さぼうと21関係者、一般参加者との交流の中で共に考え合う場です。

今年度は、「日本と出身国、そして世界をつなぐ『人財』になりたい」というテーマのもと行いました。ワークライフバランス、新薬の開発など、自身の専攻がどの様に社会に生かされるか、多方面からの発表が続きました。

本イベントは今年で6回目を数え、当日は社会人として活躍するOB・OGも多数多く迎えました。社会人になった今、外国出身者として何を感じているか、率直な意見が出されました。

「外国籍の学生」というと、留学生と間違われます。私たちのような外国出身者がいることが、まだまだ知られていないのだと日々の生活でも感じます。外国につながりがある一方で、ここ日本で生きてきたということを伝えていく。それが私たちの使命だと考えます。」日系定住者の子弟として来日、社会人としての一歩を踏み出した参加者からの言葉です。

日本や自身のルーツである出身国、そして世界各地で活躍したいという強い意志をもつ学生に少しでも学びの機会を提供できるよう、皆様からのご支援の下、努めてまいります。

「**参加者からの声**」

この度はつどいに参加させて頂き、成長したベトナムの大学院生・大学生と元上飯田中学校生徒の成長にまぶしさを感じ、勉強できる環境が日本にある事を感じました。

さぼうと21の皆様には難民の子供達に色々な分野から教えて頂き、世界の大きな窓が見えてくる事でしょう。日本や海外で活躍がしたいと思える感動のひと時でした。ありがとうございます。

私は今まで日本の方々から色々な事で助けて頂きました。今後も未来の子供達と共に進み、共に学び、子供達が日本の将来に力になってくれるように願っています。今後とも宜しくお願いします。

・支援生が様々な分野の最先端で研究していることが良くわかった。

・幼いころから外国に来て暮らすことの苦労や感想を直接聞くことができて良かった。

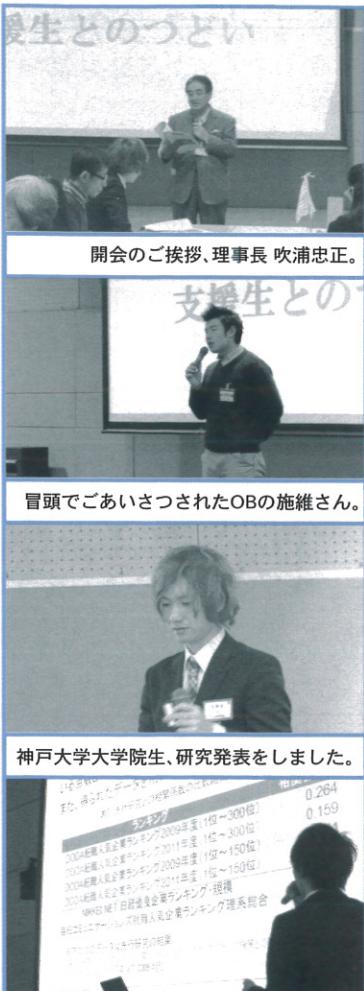
・「郷土を愛することと国籍は関係ない」という考えに共感した。

きの ひとし
紀 仁さん

ベトナム難民一世として、通訳の傍ら神奈川県上飯田中学校の国際学級で外国出身の子供達を指導中。



JICA 地球ひろば 会場



東京理科大学大学生、経営組織の研究を発表。

新たに導入される「在留カード」についての説明会

今年に入り、学習支援室で勉強する外国出身者の中から「外国人登録証が使えなくなると聞いたんですが、本当ですか?」「警察の取締りが厳しくなるんですか?」など、今年7月9日から導入される「在留カード」について、不安を訴える声が増えてきました。

スタッフも不用意に説明をすることのできない大切な問題です。そこで、1月20日(金)の午後3時から3時間以上にわたり説明会を実施。東京入国管理局の澤田善明涉外調整官からの丁寧なご説明を受け、参加者の皆さんも新制度に対して理解を深め、「安心した」「よく分かりました」という感想を残して、会場を後にされました。

※ご質問のある方は、事務局までお気軽にお問合せ下さい。



講師の澤田善明 氏

将来の夢や、10年後の自分について、 それぞれの真剣な思いが伝わってきました。



2011年度 生活支援プログラム
支援生エッセイ

LUC HUE MYさん(高校3年生)
ベトナム出身 女性

私の夢は大学に行き経済学を学ぶことです。私が学業を続ける理由は、少しでも進学できる機会があるなら大学へ行って専門的なことを学び、自分自身の将来のために役立たせることと、それを実現することで、経済的事情で進学を諦めた難民の人たちに、諦めなければ、たとえ難民の立場でも日本人と同じように学ぶこと、仕事をすることができると証明したいからです。

経済学を志望した理由は、日本と自分のルーツであるベトナムとの経済関係について学びたいと思ったからです。そのきっかけは、高校一年生のときにベトナムへ行ったことです。5歳の頃にベトナムへ行ってからほぼ10年経っているので変化があるのは当たり前ですが、日本でも見覚えのある看板が並び、海外の製品がたくさんあることに驚きました。今ベトナムは世界中の企業が注目している国で、日本企業が争って進出する予定になっているそうです。しかし、所得格差がますます広がっているなど様々な新たな問題が生まれてきています。国民の幸せが先進国に翻弄されているように感じられて、この今までいいのだろうかと考えさせられました。

その後、どこの国の経済成長にも明るい面と暗い面があることに気づきました。そして、経済や社会の仕組みについて専門的に学びたいと考えるようになりました。私は日本語とベトナム語を話す事ができ、家庭では中国語、学校では英語を学んできました。卒業後は大学で学んだ知識と、4カ国語を活かすことのできる仕事に就くことを希望しています。ベトナムに対する政府開発援助の最大供与国であり、投資や貿易相手国としてもベトナムの発展に大きく貢献をしてきた日本の中で、社会に貢献できる人間に成長していきたいと思います。

鄂 海竜さん(大学2年生)
中国出身 男性

僕の夢は日本の学校で勉強している外国人児童をサポートできる教員になることです。僕は中国人の生徒が多い高校に通っていました。日本人の生徒と比べ、停学や退学となる中国人の生徒がとても多かったです。問題を起こし、処分を受けた人もいれば、日本の学校に慣れない、日本人の友達がない、勉強ができないなどから自ら退学する人もいました。学校を離れた彼らには決して良いとは言えない環境が待っていました。就職したくても就職先がなく、できる仕事は短期のアルバイトやパートぐらいしかありませんでした。中には家に引きこもったり、外をただぶらぶらしたりする人もいました。日本語ができていれば、日本人の友達がいれば、先生がもう少しサポートしていれば、そんなことも避けられていたのだろうと今になって思っています。近年、グローバル化や国際結婚の加速などの社会背景から、日本における外国人の登録者数が200万を超えており、外国人児童の数も増えています。そして、今まで解決できなかった外国人児童の学力不振、進学率の低さ、問題行動などが問題視される中で、外国人児童に対応する専門教員の需要が高まると思います。私はそのような専門教員になりたいと思っています。自分が経験してきたからこそ、外国人児童が日本の学校でより楽しい学校生活を過ごせるよう、日本人児童と仲良く国籍や文化の壁など感じない学校生活を送れるよう、夢の実現に向けて、努力を日々続けていきたいと思います。

— ありがとうございます！ —

IBM
コミュニティランツ

学習支援室では現在6名のIBM社員がボランティアに参加しています。また、同社では社員のボランティア時間が継続して40時間こえた場合、活動先の団体にIT機器等を寄贈する「コミュニティ・グランツ・プログラム」があり、今年度はTV一体型パソコンをご寄贈いただきました。これまでに同社からご寄贈いただいたビデオカメラ、プロジェクターと共に、さぼうと21の活動に早速、役立っています。



(パソコンを使った授業風景)

Fit

for Charity Run 2011. ~走ることで社会貢献を~

金融関連企業で働く有志が企画、運営するチャリティ・イベントとして2005年にスタートしました。年に一度、国立競技場でのランニングへの参加を呼びかけ、そこでの参加費、ご寄付が、社会的意義は高いが十分な活動資金が得られないと考えられる複数の非営利団体に贈られます。そしてこの度、さぼうと21がその支援先団体のうちの一つに選ばれました！



さぼうと21も、ランに参加しました！

<http://fitforcharity.org/ja/>



さぼうと21では、この度の寄付金により、長年の懸案事項であった団体ホームページの再構築を行う予定です。難民等の定住外国出身者、その支援にあたる方々、そうした問題に関心をもってくださった方々にとって、有益な情報が分かりやすく得られるホームページを完成させたいと検討を始めています。

学習支援室だより

JICA写真コンクールで
ミャピュピヤーさん入賞！

学習支援室は、今年もまた、通学生の様々な思いをのせた書初めで新しい一年をスタートさせました。

そんな支援室に、嬉しいニュースが飛び込んできました。

通学生のミャピュピヤーさん(ミャンマー)がJICA主催のグローバル教育コンクールで見事佳作を受賞されたのです。タイトルは「たくましく生きるビルマの子」。難民キャンプでミャピュピヤーさんが撮影した写真をパソコン講師の田辺さんのご指導を受けながら一つの作品として完成させました。

2月4日、大阪で受賞式が行われ、ミャピュピヤーさんも民族衣装で出席。晴れ晴れとした笑顔を拝見し、「たくましく日本に生きる外国出身者」の力強さを、改めて感じています。

定住外国出身者の皆さん自らの発信が、日本社会にも大きな新しい風を吹き込んでくれる、そんな春の予感です。



緊急募金のお礼

さぼうと21の本来の事業である定住外国出身者の方々への支援のための資金は、例年に比べて集まりにくい状況が続いております。

前回のニュースレターにて、事業継続のための緊急募金の呼びかけを行いましたところ、**1,295,880円**(2011年12月～2012年2月末現在)ものご寄付をお寄せいただきました。支援生33名2ヶ月分の生活支援の資金に充当させて頂きます。

ご芳志をお寄せ下さった皆さまのご厚意に、改めて心より御礼申しあげます。

日本での生活が長くなる中で、語学の面だけでなく、経済面や健康面、家族の問題など、様々な問題が日々浮上してまいります。事業開始から20年を迎え、そうした困難を抱える方々にこれからもより寄り添った支援が出来るよう、努めてまいります。

今後とも引き続きよろしくお願ひ致します。

ご協力お願い致します

年会費は**4月～翌年3月**までの1年間となっております。

★不用の事務用品や、書き損じ葉書など

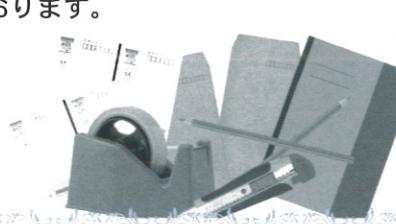
お手元にありましたら、
お知らせ頂ければありがたく存じます。

★ゆうちょ銀行の自動引落しサービス

ご利用頂いている方は、毎年4月末に、ご指定口座より年会費の引落しをさせて頂いております。

★ご送金口座の追加

みずほ銀行も加わりました。
詳しくは、事務局まで
お問い合わせ下さい。



パワーポイントで作成した作品



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.47 2012.4

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぼうと21は……

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、在日外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。認定NPO法人難民を助ける会(AAR JAPAN)を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。

「困っている人がいたらお互いさま」をモットーに、日本国内で政治、宗教に中立な立場で活動しています。学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

私たちの活動を応援してくださる方を
求めていいます！

■会員：法人会費 50,000円
：個人会費 5,000円

■ご寄付：随時受付中

会費・ご寄付とも税法上の優遇処置が受けられます

◆会費・寄付のご送金口座◆

ゆうちょ銀行	00180-7-25470 加入者名:社会福祉法人 さぼうと21 ※通信欄に会費または寄付とご明記ください
三井住友銀行	目黒支店(普)851872 名義:社会福祉法人 さぼうとじゅういち
みずほ銀行	目黒支店(普)1180279 名義:社会福祉法人 さぼうとじゅういち ※銀行振込み後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

編集・発行 社会福祉法人 さぼうと21 TEL: 03-5449-1331
FAX: 03-5449-1332

住所 〒141-0021 東京都品川区上大崎
2-12-2 ミズホビル3階 E-mail info@support21.or.jp

URL http://www.support21.or.jp

